

令和4年度 いのちの授業 事例集（中学校）【保健体育】

掲載数

25

地区	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市	中1	保健体育	生殖機能の発達と生命の誕生	思春期に生殖器の発育とともに生殖機能が発達し新しい生命を生み出す力が備わることを理解し、異性の尊重、性に対する適切な態度や行動がとれるようになることをねらいとした。	
2 川崎市	中2	保健体育	防災教育	学習指導要領に記載されている、自然災害、防災、応急手当、心肺蘇生法について、教科書の内容を参考にしながら指導した。	宮前区ハザードマップ
3 川崎市	中2	保健体育	3章：傷害の防止 (傷害の発生要因、交通事故の発生要因、交通事故の危険予測と回避)	「傷害の発生要因」で、中学生の死亡要因の特徴について確認し、病気や事故死で命を落としてしまっている中学生がいることについて学習した。 また、「交通事故の発生要因」と「交通事故の危険予測と回避」では、中学生の自転車乗車中の事故が多いことを確認し、事故を回避するために個人や班で自分たちの通学路で危険な場所を探し、事故防止について話し合った。 生徒の活動から自分の住んでいる地域の危険な場所を探し、事故防止の対策やどのような行動をとるべきかを考えるなど、活発な意見交換ができていた。	保健体育教科書
4 横須賀市	中2	保健体育	スクール救命教室	横須賀市消防局の方たちに来ていただき、心肺蘇生法+AEDについて座学、実技両方教えていただいた。生徒たちも真剣に取り組み、中学生にも救えるいのちがあるということを考えることができていた。	横須賀市消防局
5 湘南三浦	中2	保健体育	がんとその予防	1981年より日本人の死因の第1位であるがんがどのような病気であるかを理解し、自分自身の生活を振り返りながら、健康を保持増進する方法を考える。クイズ形式でがんの特徴や、がんになってしまう要因について理解を深めた後、がんの予防に関する資料と自分自身の生活を比較しながら、自らの健康課題について把握し、改善するための具体的な予防策を、30年後の自分へのアドバイスとしてまとめた。	事前の意識調査としてテキストマイニングを使用した。授業時はパワーポイント、ワークシート、ロイロノート等を使用した

6	湘南三浦	中2	保健体育	がんとその予防	生活習慣病の題材から、がんのことにについて授業を進めた。日本では現在、およそ2人に1人ががんになるといわれ、誰もがなりうる深刻な病気であることを確認した。必ずしも生活習慣が原因となるとは限らないが、1つの原因として今の生徒自身の生活習慣の見直しを考え共有し、改善点を考えていく授業を行った。更に、がんの主な原因として喫煙が挙げられるなど、資料から将来の過ごし方についても考えた。また、深刻な病気ではあるが、早期発見・治療を行えば、回復できる病気であることも確認し、今後の自分の行動についても考える機会とした。実生活と結びつきが高い題材であるため、家族のことも考える生徒も多く見られた。	動画 がんってなに？ いのちを考える授業
7	湘南三浦	中3	保健体育	性について	昨年度に引き続き湘南助産師会の講師の方に来ていただいた。昨年度は「いのち」をテーマにして今年度は、「性」についての内容にした。事前に生徒へアンケートをとり生徒が「性」についての情報や、知識の確認をして準備した。性行為・性についてのトラブル・SNSでのトラブル等幅広く体験型の講演をしていただいた。終了してから講師に質問する生徒もいて自分の抱えている悩みや相談ができたと感じた。	湘南助産師会 4名
8	湘南三浦	中1	保健体育	妊娠と出産	思春期の男女の体つきの変化と受精から出産までを取り扱った。その際、実際の胎児のエコー写真を見せる、出産当日のスケジュールを伝えるなど、具体的で想像しやすい教材を提示した。	1年 保健体育
9	湘南三浦	中複合	保健体育	「いのちを守る」	プール学習を前に、「いのちを守る」ためにどうしたらよいか、について身近な川や海での危険回避方法を学んだ。海では、離岸流やそこからの脱出方法について図を見ながら学んだ。川では流れが作る深みや、川の急流のできる所について学び、夏休み中の命を守る行動についても考えることができた。	体育教諭
10	県央	中1	保健体育	心身の機能の発達と心の健康～大切な命	生殖機能の成熟、受精と妊娠について命の誕生までのプロセスに対する理解を深めた。その中で、命が生まれる神秘さ、不思議さについて考えさせるため、映像を使ったスライド資料を用いた。生徒は、自分自身を振り返ってかけがえのない命であることを実感するとともに、異性への尊重について考えを深めていた。	
11	県央	中2	保健体育	応急手当	中学校2年の保健体育の応急手当の実習。消防員による救命救急処置を実施。心肺蘇生法（胸骨圧迫・人工呼吸）、AEDの使用法の説明と体験を実施した。いつでも応急処置ができるための基礎知識を身に付け、人の命を助けることができることが大切という話をしていただいた。生徒は真剣に話を聞き、応急手当の意義や流れも理解することができた。	厚木市消防本部 8名

12	県央	中2	保健体育	心肺蘇生の実習	保健体育科の授業の一環として、消防署隊員による心肺蘇生の実習を行った。少人数のグループごとに講師1名がついて、丁寧に講習を行った。また、AEDは練習用のものを実際に用いたため、本番さながらの実習を行うことができた。実際の災害の現場に立ち会っている消防士の方から話を聞くことで、身近な「いのち」を、いざという時に助けるための行動について真剣に考えることができた。	・消防署隊員による実習 ・保健体育 傷害の防止「応急手当の意義と基本」教科書（学研）P72～77
13	県央	中1	保健体育	性教育 「生命教育」	学年で体育館に集まり、講師の先生が作成してくださったスライドの写真やクイズを見たり、3kgの赤子の人形を実際に抱いたりすることを通して、「生命」という視点から「性」について考える機会を得た。自分が今存在しているのはどれくらいの確率の奇跡なのか。自分の誕生の仕組みや赤子を抱く体験から、生命の尊さについて学んだ。生徒たちは、性について、いやらしいというイメージの性だけではなく、相手や自分を大切にするための性であり、そのために正しく理解する必要があるということを認識しているようだった。授業後の生徒が記述したワークシートから、自分も相手も大切にしていきたい、親の大変さがよく分かったという記述が見られた。生徒は3kgの赤子の人形を5分間抱えながら話を聞き、その大変さを感じることもできた。	講師は、昭和大学保健医療学部看護学科助産学専攻科の教授。
14	県央	中2	保健体育	AED講習	消防署の方にお越しいただき、傷病者の確認方法や蘇生法、AEDを実際に使用する実践を行った。命の大切さや、いざというときにバイスタンダーとして動く心構えができた様子だった。	
15	県央	中1	保健体育	二次性徴	二次性徴の単元をメインに、日本の性を取り巻く環境と、国際セクシュアリティガイドダンスとの違いについて、SNS上で起こりうる性暴力・性被害について授業を構成した。 時代と共に家族の多様化とインターネットの発達が進み、学校で性を学ぶ機会が大切であることを、世界中で見直されるようになったが、日本は消極的なままであることを発信し、性をとりまく国際的な権利や、性的同意の大切さを身近な事例を用いて考えるきっかけ作りをした。最後に、安心して失敗談を語れるのが本当の居場所であることを提示し、相談しやすい関係づくりを提案した。	
16	県央	中2	保健体育	心肺蘇生法	保健体育の授業で、心肺蘇生法を学習し倒れている人に対して、居合わせた人がいかに心肺蘇生を素早く行うかで、救命率が変わってくることを学習した。 また、具体的な心肺蘇生法を演習し、何か1つでもできることを学習した。	本校教員
17	県央	中2	保健体育	応急手当の意義	大和市消防のゲストティーチャーを招いて、心肺蘇生やAEDなど応急手当の基本について実習を行った。人の命を救う大切さ・方法を通じて命について考えた。	
18	県央	中1	保健体育	生殖機能の成熟	思春期になり身体が成長に伴って命を誕生させることができることについて考えた授業を行った。	

19	県央	中2	保健体育	傷害の防止「心肺蘇生法」	保健の授業で心肺蘇生法の講義と実習を行った。 心肺蘇生法の実習に関しては、傷病者の発見から胸骨圧迫、気道確保、AEDの使用の実習を行い、救命の意義と方法を確認した。そのときの生徒の様子は、人形やAEDトレーナーを初めて目の当たりにする生徒が多かった。戸惑う場面も見られたが、実習の際は周囲の人と協力しながら心肺蘇生法を確認していた。	授業は保健体育科教員が行い、AEDトレーナーや人形は市の消防から借用した。
20	県央	中2	保健体育	心肺蘇生法AEDの使い方	心肺停止に陥った人への応急手当として、気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AEDの使用の仕方などの心肺蘇生法の学習を行った。現在の社会環境として、「共同で教具と使うこと」、「一つの教具に密集すること」を避けるため、実習を行うことはできなかったが、VTRや教科書を使って学習した。	
21	中	中3	保健体育	感染症とその予防	感染症はウイルスや細菌などの病原体が体内に侵入して感染するということを知り、その感染の広がり方、感染経路について、簡単な実験を行うことで実感を伴った学習を行った。 具体的には、各人が真水の入った容器を持ち、4人だけ石灰水を持つ。人と人との接触をお互いの水が少しずつ混ざることによって例える。何回かの接触で、石灰水がどれだけ広まったか、フェノールフタレイン溶液をたらし、赤く染まることで調べた。	2クラス合同で体育館で行った。 講師は保健体育科教員が2名で行ったが、理科教員に助言をもらい、事前準備等の協力をしてもらった。
22	中	中1	保健体育	①生殖機能の成熟 ②性とどう向き合うか	①ホルモンや生殖器について学び、なぜこの学びが思春期に必要なのかを説明した。将来、子どもがほしいと思った時に授けられる身体にいるための健康面の配慮や、望まない妊娠への危惧なども含め、生殖器に関する知識は大切という認識をもたせた。 ②LGBTQが現在では何十種類にも分類されており、人それぞれのセクシャリティーがあり、それに対して偏見や差別をすることについて考えさせた。また、性的欲求を感じることは悪いことではなく、お互いを尊重した関係を築くこと、性情報に適切に対処し、適切な行動をとることで、性犯罪を防ぐことができることを説明した。	教科書
23	中	中3	保健体育	心肺蘇生法	災害や緊急時などの状況での対応について学習した。災害や事故を想定し、負傷者を発見した際に、自らの安全を確保しながらAEDの使い方や心肺蘇生法を実践した。	ワークシート AED(練習用) 映像資料
24	県西	中1	保健体育	性教育	思春期は、筋肉や骨、体の各器官、そして、生殖器官がめざましく発育・発達することを学習した。そのうえで、個人差はあるが、この時期に男子は精通、女子は初経が起り、新たな生命を生み出せる体に自分たちが変化していることを理解させた。また、男女の体には違いがあり、異性を尊重することが大切だと伝えた。	教科書
25	県西	中2	保健体育	保健「傷害の予防」 応急手当の意義と基本	1時間目では、きずの手当、心肺蘇生法の流れ、AEDの使い方等の確認をした。2時間目では、体育館にて心肺蘇生法の実習として、4人一組で15分間継続的に胸骨圧迫を行った。生徒は真剣に取り組み、メトロノームに合わせて一定のリズムで圧迫し続けることや命を守ること、救急現場の大変さを実感していた。	心肺蘇生法の実習では、Tシャツの中にバレーボールを入れて行った。また、メトロノームを使ってリズムを確認した。